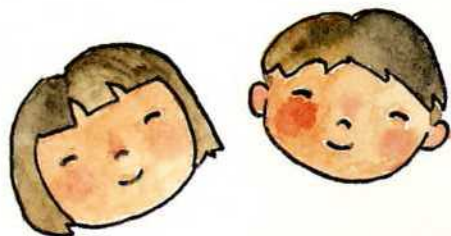
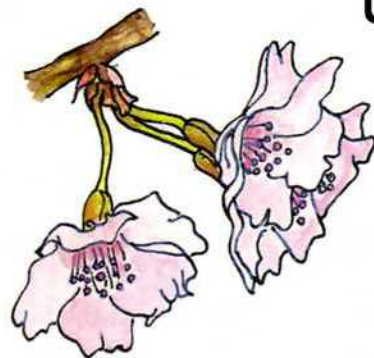


「優しさ」という ビタミン愛

パート2



2005年(平成17年)3月発行

編集発行：西宮市

〒662-8567 西宮市六湛寺町10番3号 ☎ (0798) 35-3320

西宮市・西宮市教育委員会





2005年1月17日午前5時46分

今年も黙禱をしながら、やはり涙が出てしまいました。

沢村さん、お元気ですか。青木公園の前には家がいっぱい建ちましたよ。

幸田先生、大好きなプロ野球に今年は新しいチームができましたよ。

七尾さん、キムタクは相変わらずかっこよくテレビに出ていますよ。

たっちゃん、健ちゃんは今高校生。サッカーをがんばっているよ。

あの日から、10年が経ちました。

1146人の方が亡くなった西宮市。

一時は40万を割った人口も、

今では震災前を大きく超え46万人にもなりました。

復興は確実に進み、街は元気を取り戻しました。

それなのに、まだまだ涙は枯れないし、

心の整理もなかなかうまくつけることが出来ません。

でも、1.17は、私たちに一生懸命に生きることと

人の優しさと温もりを教えてくださいました。

そんな「優しさと温もり」を今回も綴ってみました。

せんせいのこと だいすき

弘は3年生。

クラスーのやんちゃ坊主です。

先生のいうことをなかなかきかずに

先生をよく困らせました。

1995年1月17日 阪神淡路大震災

弘の家は半壊でした。

弘の家族は幸い無事でしたが、近所の人
たくさん亡くなりました。

1月30日学校再開の日、

弘は一番に学校にやってきました。

そして誠也先生を捜しました。

弘は先生を見つけると
全速力で先生のもとに駆け寄り
抱きつきながら、大きな声で言いました。

「先生が、生きてよかった！」

「弘も無事で・・・」

誠也先生は、涙で声が出ませんでした。



安心して 母さん

母さん元気かい。

俺はちょっぴり体重が増えたけど仕事がんばってるよ。

それに母さんに言われたこと、守ってるぜ。

高校生になっても俺を子ども扱いにして

早寝早起が一番健康にいいとか

好き嫌いはせず、何でも食べろとか

礼儀は守れ、しっかりあいさつをしろ

ありがとうは忘れてはいけない

靴はそろえて脱ぐ

自分には厳しく、人には優しく

そんなことにいちいちうるさかった母さん。

もう俺は大丈夫だよ。

もうすぐ結婚もするよ。

だからだから、

お願いだから・・・安心して、母さん。

もう天国でゆっくりと休んでいていいから・・・。



懐中電灯にこめた愛

あゆみちゃんは小学1年生。
今日もお母さんに絵本を読んでもらいながら
眠りにつこうとしていました。

絵本を読み終え、お母さんが電灯を消し
「あゆみ、おやすみなさい」って言うと、
「ママ、ここ見て」
と言いながら
懐中電灯で、天井に字を書きました。

「ママだいすき」

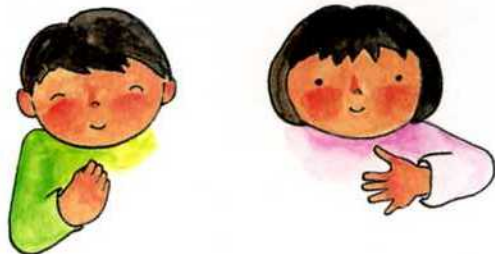


だいじょうぶ、あとは まかせて

私たちは、ともに小学校の教師をしている夫婦です。
二人の子どもは1歳の時から、
保育所に預けて仕事をしてきました。
子育ては二人で力を合わせてやってきたつもりです。

子どもが病気になると、夫婦交代で休むしかありませんでした。
学校を休むと、クラスの保護者の一部から非難が出ました。
特に男の私には
「なぜ、男の先生が休むの?」「お母さんが休めばいいのに」
もちろん、妻も交代で休んでいたのです。

ある日、授業中に保育所から私に電話が入りました。
2歳の娘が熱を出しているので迎えに来て、というものでした。
私は困ってしまいました。
今、帰ったらまた非難される、そんな思いがかけめぐりました。



すると、クラスの子どもたちの中から
「先生、迎えに帰ったりよ。かわいそうやん」って声が出ました。
私はその声の後押しされながら、教室をあとにしました。
その後ろから、
「先生、だいじょうぶ、あとは まかせて!」
かおりが、大きな声で叫んでくれました。

あの2歳の娘は、今年23歳になります。
そして私に勇気をあたえてくれたあの子どもたちは
もう30歳をこえました。
大きな声で励ましてくれたかおりは、今、中学校の先生です。
子育てをしながら頑張っています。

みんなみんな本当にありがとう。

優しいライダー

私のマンションの駐輪場は奥まった場所にあります。

ある朝、私が自転車で出かけようとしたら、
大きなオートバイを押しながらマンションの外に
出ていく方がいました。

「ああ、故障だな。気の毒に」
と思っていたら、

マンションの前の道路に出ると、ブーン！と
エンジンをかけて、そのまま走って行きました。

ああ、そうだったのか・・・
エンジンの音を気にして・・・

なぜかうれしくて、
さわやかな気持ちになった朝でした。



息子からの温かい贈り物

健太とお父さんは、1年前にお母さんと別れ
男同士2人で暮らしています。
まだ4年生の健太は、大丈夫だろうか。
それが、先生とお父さんの
共通の心配事でした。

10月のある日、学校で健太は
「自分の好きなところは？」という先生の問いかけに
「お父さんが好きな自分が好き」と書きました。
先生は、そんな健太の文に感動し、
その夜、さっそく家庭訪問に行きました。
玄関先で、お父さんにこのことを話すと、
お父さんは、目を真っ赤にし
「先生、ありがとうございました」と言いました。
「先生ありがとうじゃないですよ、
これはお父さんががんばったからですよ。
遠足の時は朝4時に起きて息子の弁当をつくってくれたし、
運動会の日も仕事があったのに、
半日休んで息子を応援しに来てくれたでしょ。
そのお父さんの気持ちが健太に伝わっていたんですよ。
お父さん、しんどいのによく頑張ったね、
お父さんえらいなあ、
お父さんよかったなあ……」

お父さんは、玄関先で
流れる涙を拭きもしないで、
ただただ
肩を大きくふるわせていました。



42年間の教師生活 お母さんご苦労様

私の母は、3月末で

42年間にわたる教師生活を終えます。

42年間といってもそれはそれは長いものです。

その間には、戦争があり、結婚、出産、子育て、子宮ガンとの闘い、我が子の結婚、孫の誕生と、女として、母として、さらに教師としても、私には想像もつかない苦労があったと思います。

朝早く起きて家事を済ませ、皆より早く家を出て、夕方遅く重い荷物を持って帰る母。

夕食の後かたづけをすませ、家族が寝静まってから持ち帰った仕事をする母。

私は、卒業式に一度も

母に来てもらったことがありませんでした。

母もちょうど自分の学校の卒業式と重なっていたからです。

でも不思議と一度も不満に思ったことはありませんでした。

今考えれば、何に対しても

真剣な母の姿を見ていたからだと思います。

そんな母を見て育った私も今、母と同じ道を歩んでいます。

お母さん、42年間、本当にご苦労さまでした。

(25歳 小学校教員)

わかりました 母さんの苦労

ある日、新聞をめくっていると、投書欄に赤わくがつけてありました。

「42年間の教師生活 お母さんご苦労様」という見出しがついています。

読んでみたら、学校の先生は大変なのだということがよくわかりました。

けれど、それより心に残ったのは

「卒業式に一度も来てもらえなかったのを不満に思ったことがない」というところでした。

私のうちは、父がいないので、母が女医として働いています。学校の親子レクリエーション会などの行事にも来てもらえません。

「卒業式ぐらいは来てね」

と前からたのんでいたのですが、患者が増え、とうとう来てもらえませんでした。仕事だから仕方ないということはよくわかっていたのですが、母に文句を言ってしまったのです。

「誰も来てないのはうちだけやってんで」

すると母は「気の毒やけどがまんして」と言いました。

私はその後もすねていましたが、

この欄を読んで自分がとても甘えていたことがわかりました。赤わくをつけたのは祖母でした。

「母さんの苦労もわかってあげてや」

と今度いわれたら、うなずいてあやまれると思います。

(13歳 中学生)



最後の授業

3月になると思い出ず授業のことがあります。
それは、3年生4年生と2年間を一緒に過ごした
子どもたちとの思い出です。

4年生ももうすぐ終わりの3月、
今日が最後の体育の授業という時です。子どもたちから
「先生、今日は最後だから私たちの好きなようにさせてください」
と申し出があり、好きなようにさせることにしました。
私は、ただじっと様子を見ているだけでした。
子どもたちは、マット、跳び箱、セーフティマットなどを
せっせと出し、何かを始めようとしていました。
大きく二つの輪が出来、何やら声をかけ合いながら始めました。
その輪の中には、恵美と優子がいました。
二人とも跳び箱が跳べない子でした。
クラスの中でこの二人だけがまだ跳んだことがなかったのです。
その二人に、みんなが声をかけ、
励まし、支え、一緒になって取り組んでいるのです。
私はこの光景を見ただけで胸が熱くなってしまいました。
「支え合う仲間」を学級目標にして頑張ってきたこの2年間です。
今までいろいろなことで協力しあってきました。
苦しいことも一緒になって乗り越えてきました。
その子たちの最後の授業がここにありました。



そして、私がいくら頑張っても跳ばすことができなかった二人が、
跳び箱をフワッと跳んでいったのです。
その時のみんなのうれしそうな顔は、忘れることができません。

3月25日修了式の日、
みんなの小さな瞳から、大粒の涙がこぼれました。



※文中の名前等はすべて仮名です。

人権文化の花咲くまち 西宮をめざして 6

平成17年(2005年)3月
西宮市・西宮市教育委員会

文・仲 島 正 教
画・中 西 徹